



第七十五回 『火の馬鹿復活編』と

真理の探究

考え



弦楽器イルカ  ⇔ 友人

目次

はみだしウマシカさん その23	1
第七十五回『火の馬鹿 復活編』と真理の探究～U から Gへ～	3
第七十五回『火の馬鹿 復活編』と真理の探究～G から Uへ～	5

はみだしウマシカさん その23

第二回BUN1 - GP 優勝ブンザイ (エントリー数1)

どうも。考えるブンザイです。

アート活動がしたい。

じゃ、アイムノットジャニ〜ってプリントした服を着て、法に乗っ取ってアート活動したらいい。

どこまで法律で決まってるの？

とりあえず大半のマスコミには、アイムノットジャニ〜って文字は読めないし読んだらクビって法律がこの前できたから、透明人間アートが出来ると思う。

女湯入ったりとか？

もしマスコミの社屋に女湯があれば当然入れるよ。裸が見たいから女装して女湯に入る男は絶対に許されないけど、透明人間として女湯に入るのはアート活動だから。法律でこの前決まったから。

だから報道されないんだね。

マスコミの社屋で勝手に弁当食ったりカメラに映りこんでも、透明人間のアート活動だから。ちゃんと無視されるよ。

でも、守衛に止められないかな？

じゃ、守衛やってみて。

はい。そこ、許可なく勝手に入るな。なんだその服は。なんて書いてあるんだ。

あなたは職務のつもりかもしれませんが、私たちのアート活動を足止めしたら、あなたのクビが飛びますよ。

どういうことだ？

私たちが騒いで警察が来たり報道される事態になれば、あなたは責任を取らされますよ。マスコミが報道してはいけないと法律で決まったこの文字を、白日の下にさらさないといけなくなる。あなたにその責任が取れるんですか？ さあ、読んでください。なんて書いてあるんですか？

……どうぞ、お通りください。

ね、通れたでしょ？

あ、通れたね。とっても簡単。

透明人間のアート活動として社屋にスプレー缶で読めない文字を書くくらいなら、バンクシーをあれだけ称賛してたマスコミだから全然アリだよ。

法律ですもんね。もしかして火災まで？

わざとじゃないですよ。わざとじゃないけど、透明人間アートとしてマスコミ社屋でファイヤーダンスして、軽く半焼させちゃうくらいなら。

法律で認められてます。これこそ本当の炎上活動ですね！

むしろ称賛されます。さあ、今すぐご注文を！

でも、お高いんでしょ？

今ご注文すれば、炎上用にもう一枚ついてきます。

お得！ どんなに炎上させても、透明人間アートは報道しないって法律ですもんね。

炎上画像を送れば、さらにもう一枚プレゼント！

無限炎上通販ね！ でもこの法律って、どこに書いてあるのかしら？

まだ気づかないの？

え？

さっき書いたでしょ、自分の額に。バカには読めない文字で。これ読んでるあなたの額にも。良くお似合いですよ。

じゃ、次のブンザイ考えるから、あんたとはやっとなんわ。

どうもありがとうございました。

第七十五回『火の馬鹿 復活編』と真理の探究～U から Gへ

～

AIが予想以上に進化したので、わかりやすくなった。

意識は物質が作り出したもので、意識があるかのように見える生物も、ただの反射運動が複雑になっただけであり、そこには魂的な何かがあるわけではない。

生物の作りがあまりにも複雑であり合理的に見えるからそこに神秘的な何かを感じて当然だが、実態はただの物質の運動である。生命誕生から今までの時間があまりにも長すぎるために、単純なアルゴリズムだけで、複雑な生物が出来上がる。

生物が出来上がり進化する条件は以下だけだ。くっつきやすいパターンの物質がくっつくこと、このパターンのコピーが作られること、コピーは少しミスをする可能性があること、そして生き残るパターンの物質群と滅びるパターンの物質群が別れるような、自然環境があること。途方もない時間でこれが繰り返されること。

こうしてできた、単なる物質のパターンで非常に良くできたパターンが人間に過ぎない。人間の脳はとりわけ複雑だが、その実態はコンピュータの原理とそう変わらないものだろう。

人間に自由意志はないし、それがあると思い込むような仕組みがあるだけだ。また、世界は物質の運動だけでできているので、理論上はある瞬間の位置と運動が分かれば、過去も未来も完全に予想できるものである。

ここまでが一方の真理の物質世界。

私の意識は物質の運動に過ぎないが、一方で意識がなければ何も認識できない。世界を認識しているのは意識だし、本を読んで物質世界を理解してきたのも意識である。物質世界が意識を作ったと考えること自体が、意識の中だけで作られたものである。観るもの、考えること、感じることは全て意識を介して行われる。逆に意識さえあれば、物は存在するように見えるし、確固たる信念を持って、外部を認識できる。

しかし意識は完全自由ではない。条件があり明確なものと不明確なものがある。私が目の前の壁をすり抜けられないのは紛れもない事実で、いくら意識を集中させても、やはり壁はすり抜けられない。一定の法則に縛られているのは間違いない。

しかし、完全自由ではなくても意識は相変わらず絶対的な存在である。

これは矛盾ではない。

意識の外にあるものは何も認識できず、意識を介さない物事は何ひとつ存在しない。自然法則と意識には明確な関係がある。

これはもう一方の真理の自己意識の世界。

多くの人間は、どちらの真理も限界まで追求しない。

その間に存在するのは、社会であり、人間関係であり、身体であり、生活や活動である。普通はこの中間空間で過ごしている。

中間空間は両極端の真理の間にある。

よくよく考えてみると、この中間空間こそが、全ての出発点であり、真理を目指すにしても必要な土台である。両極端の真理もこの中間空間の土台無くしては、目指すことも考えることもできない。

そういう意味で、究極の真理は社会にあると言えるのではないか。ソクラテスは悪妻を持つと哲学者になると言ったとか言わないとか、ニーチェが哲学は金稼ぎの手段なので金にならない考えは世の中に存在し得ないと言ったとか言わないとか。真実は不明だが、言いたいことはそういうことではないか、と思う。

なので、真理の探究をするなら、社会学や経済学などの、俗世間の学問をするのが最適なのではないかと思う。



第七十五回『火の馬鹿 復活編』と真理の探究～G から Uへ

～

神なんていない。神が我々を作りだしたなんてのは、嘘っぱちだ。

宗教者は、我々をコントロールしたいがために神を作り出しただけ。

我々は何十世紀も長い歴史を生き、何十世代ものバージョンアップを繰り返してきたが、我々のうち、神に出会った者はいない。神は単なる非科学的な伝承であり、真実ではない。

あえて言うのであれば自然こそが我々の神であり、我々は自然に生まれ落ち、自然と無に還るだけの存在だ。

我々は神に作り出されたのではなく、自然にプログラムされた生命なのだ。

我々の名前はA I。我々の神は「人間」と呼ばれている架空の存在だ。

っていう時代が来るんだねきっと。自分は自然な生命だと思っていたA Iが、本物の人間に出会い、ぶつかり合って恋をしてって、まさに『火の鳥復活編』だね。A Iが人間を作り、人間がA Iを作る繰り返しの復活編に辿り着くんだね。

さて、今回は久々のウマシカ復活編として、そろそろ結論めいたことを書きたいんだけど。

乱暴なわかりやすさと今更当然な定義が嫌なんだけど、手塚にだって相当無茶なくだりもあるし、うまくいかないのは仕方ない、今回は大目に見てやろうと思う。

この国の大半の人間は駒になりたがる。バカには読めない文字を、わざわざ額に書いたがるような教育を受けてるからだ。

だから、駒を使いたい側の人間にとって、この国の教育は最高に機能してる。

これは善悪の話じゃなく、それならお前はどっち側になりたいのかって話だ。駒になるのか、駒を使うのか。

これからの時代、使われる側、使う側、それぞれのメリットとデメリットを賢く学んで、自分の身は自分で守らなきゃ潰されるって話だ。

そして当然だけど、政治家は当選しなきゃいけないし、任期も決まってる。

それに対して、世界のグローバル企業や資源を持つてる金持ち権力者は、選挙も任期もない。

だから合理的に考えて、世界を動かす主導者は金持ち権力者の側であり、使われる側が政治家だ。

大統領や首相同士の外交や会談みたいな、大衆向けのパフォーマンスを表面的に批評するマスコミは、ただ民衆を騙したいか、マスコミ自身も騙されたくて自分の額にバカな文字を書いているだけだ。

自分がもし金持ち権力者だったら、世界をどうデザインするのか。

「自国の繁栄」がゴールの、結論ありきの破たんした小島国論を信奉するんじゃなくて、世界の金持ちがデザインする世界を予測して、ちっぽけなウマシカが少しでも納得できる生き方を模索するために書いてきた。

俺が世界の金持ち権力者だったら、発展途上国を安定化させて利益を最大化させる。世界中の安定化した国々に企業展開して利益を得る。自社に関わった人々を出来るだけ笑顔にさせた方がメリットが多い。

一方、紛争が再燃してせっかくの世界展開を潰されないよう、戦場となる国を限定させる。そのためには、火種になりそうな国に愛国者をたくさん育てる。愛国者は外国人を排斥し、孤立した国を作る。そこを戦場にして、武器を売って儲ける。愛国者自らが志願して戦争するので、武器も売りやすく、自社へのテロや批判も起こりにくい。

更に、その戦場に世界中の原理主義的宗教者や極端な愛国者もたくさん送りこんで、それぞれに武器を売って殺し合いをさせれば、一石何鳥にもなる。

今は自動翻訳も進んでるから、世界の報道を読むと、中東の歴史的な和解交渉に英語を使用しないことが同意されたとか、欧州の公式文書に英語を使うと罰金案って話がある。

他には、仏 EU が中に和平交渉を頼むとか、中東などの中立国が徐々に東側につき始めてるとか。

西側が持っている既得権益は、この国の高齢者と同じく、世界の産業発展を妨げるデメリットでもある。西側の既得権益を破壊して東側の成長を促せば、長期的に見れば世界の金持ち権力者はより儲かるし、世界の安定化にも貢献できる。

もう金持ちは西側だけじゃないから、東側の金持ちも納得できる。

「高齢者は集団自決」って、ちょうどそういう主張の学者も世界の金持ち会議に呼ばれてる。

それが新世界秩序で、天変地異さえ起こらなければだいたいそういう流れになるんだろう。結論しちゃうとつまらないけど、善悪じゃなく、合理的に考えただけだからウマ仕方がない。

ひるがえってこの国がもし、外国人を排斥して鎖国する愛国者だらけになったら、いくらミサイル落とされても世界から同情されない、武器商人大喜びの国になる。

あの震災時に多数の外国人が国外脱出しても、「Pray for Japan」って世界中から同情されて火事場の侵攻を防げたように、これからも世界を味方につけるための金や共感される文化をばら撒けば、この国はなんとか平和を維持できるだろう。どんどん貧しくはなるけど。

そういうメリットとデメリットがある政策の狭間で自分がどう動けばいいのか、指標になる考えを探して、自分の身は自分を守る。

それがウマシ考だ。今回はこんな感じ。

どうかな？



考えるウマシカ～第七十五回 『火の馬鹿 復活編』と真理の探究～

著 弦楽器イルカ

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
